

2015

高校演劇

阪神大会鑑定団

鑑定士 小原 洋（西宮香風高校）

はじめに

- 1 演劇は舞台芸術です **創る側の自由** が保障されます
- 2 演劇の審査は、舞台芸術の総合評価です **観る側の自由** が保障されます
- 3 脚本、舞台美術（大道具・衣装・小道具）、役者の演技、音響効果（BGM・SE）のすべてが評価の対象です
- 4 評価に客観的基準はありません **審査員個人の演劇観** で上下します
- 5 県・近畿・全国の大会では、複数の審査員の評価を重ね合わせて補正します

今年の支部大会は？

- 1 文化祭と日程が重なって、全部は見られないことがわかってましたから、今年は**気ままな観客**に変身。だから恒例の舞台図也没有せん。
- 2 自称「漫画家」の、ややあやしいお兄さんが阪神大会、県大会とピッコロに出没。
（**妄想** あれはきっと、ももクロファン。「幕が上がる」を見てなぜか突然演劇に興味を覚えたんだ。間違いない。平田オリザ効果？）
- 3 ごんちゃん（県立伊丹 五ノ井先生）いわく、今年は「**画期的**」。そうかなあ〜？
鑑定士としては、ここでへそを曲げてあえて「ぜ〜んぜん」と言っときましょう。
「ぜ〜んぜん」の後に続くのは「いいね」じゃなくて、「いけません」です。
- 4 “エクセレント”（優）作品のない大会では、“グッド”（良）作品の中から県大会出演校を決めるしかない。この場合みんなが納得できる作品が選ばれるのはほぼ無理（審査員経験上）。どうしても**演劇観バトル**になってしまう。（ただし県大会では大体が補正されます。）皆さんの演劇観は？

●話の始めに、僕自身の演劇観みたいなのをはっきりさせときましょう。

演劇ってなに？ 何が劇的？ どんなものを見たい？

●誤解なんか気にせず、するっとまるっと言って、僕にとって演劇は「仕掛け」です。

「からくり」と言ってもいい。「おもちゃ箱をひっくり返したような世界」。

調味料には、ちょっぴりの「毒」と「遊び心」を。

それがないものは、あんまり見たくないし、創りたくない。

(ピタゴラスイッチみたいなのを思い浮かべてもらいたいんですが。知らんやろな～。)

●たとえば、ジェットコースター。



カタカタと時間をかけて登

ってゆくと、頂上だ！ と思う間もなく急転直下。その勢いでねじれながらの再上昇。カーブで振り切られそうになりながらも耐えていると、再降下……。それを何度か繰り返して最後のホームストレートに戻ってくると、乗客みんながなぜか笑顔になってる。そして停車。



●あるいは、お化け屋敷（昭和な表現ですみません）。人間が扮しているとはわかっていて



も、やっぱり暗い中、何者かの突然の出現にはビックリ。

または、はやりの脱出ゲーム。時間内に謎を解けて、なんかわくわくしますね。



ほかにも野外のパレードや、大道芸の数々。おやつ食いながら、おしゃべりしながら楽しんで……。

いったいいつから、観客がおやつ食っちゃいかんようになったのか。

●だからもしかしたら、たまの休日にはUSJ か、



シルク＝ドゥ＝ソレイユ に行ったほうが劇的なのかも……。

以上、私の見たい演劇でした。



さて、そのうえで今年の阪神大会は、・・・

初日、開会式後、トップ県西の開幕のアナウンス。客電が落ちて緞帳が上がり、なんやかやあって緞帳が下りた。客電入り。以下最終日まで同じ。(土曜日は見てないのでわかりませんが)

客電つきっぱなしの舞台もなかったし、緞帳上げっぱなしで始まる舞台もない。お客をいじって舞台に上げることもなく、まして野外劇などあるはずもなし。

キャットウォークから制服が降ってくることも、カレーのにおいや焼き肉の煙が客席まで漂ってきたわけではないし、ドライアイスでオケピットの客が窒息したとも聞いてない。マジックショーもなければ、ジャージで演じる時代劇もない。湯上りにバスタオルまいた女の子たちもでてこない。(以上、「客電つきっぱなしの舞台」以外は実際に存在しました。)

そんなところに「画期的」が転がっていたのではなさそう。僕なんかよりたくさん高校演劇を見て知っているごんちゃんには、なにがどう「画期的」だったのか？

今年も例年同様、オーラを放つ役者はいたし、アンサンブルのよくとれた舞台もあった、コントもあったし、名人のダンスも金管の生音も……。ただ僕にとって文句のない演劇は少なかった。今年の審査はきっと大変。そんな予感。

とりあえず、見た順に(メモ残してないので、覚えてる学校の覚えてるところだけ)

①県西宮

見ていて、「ここはどこ？あなたは誰？」はほぼすぐにわかりました。大事なことです。夜の学校で、悪事を働く何者かと対決する。本もよくかけています。

が、それにしても・・・無造作に敷かれたパンチ、無造作に置かれたトスポ君や??君(名前を失念)。役者さんは無造作に動いて無造作にセリフを暗唱しているように見えました。世界の立ち上げに失敗しているのです。

夏の講習会の講師だった高橋、むらさき両先生の言葉、おぼえてますか。「セリフが体に入っていない」「セリフが体から出てきていない」「セリフに説得力があるかないか」

これは役者の訓練の問題でもあります、むしろ舞台上の世界の作り方と関係しています。要するに、「忙しい」「大変だ」とセリフを繰り返しても、舞台上そう見えなければセリフは伝わっていないのです。

「嘆願書」が他のゴミにまぎれて、取り上げられなかった、というのが本の上での「仕掛け」ですが、せっかくのその仕掛けが見えませんでした。残念。

んなら どうするんじゃ～

ま、とりあえずホワイトボード(か黒板)に3人分の仕事の分担を書き出しましょう。そして、参加できなくなったひとりの名にバツ印。その仕事を残りの2人で分担する、という状況を観客に見える形で呈示します。可能なら各種締め切りの書き込まれたスケジュール表

も。締切日が次々と後ろに下がっているとか……。セリフだけでは弱い。

机が小さいね。もっと大きな机と、いっぱい書類、文具、何かわからんけど生徒会室にはありそうな物、分別できるゴミ箱（シュレッダー使うともっと面白くできるかも。どんどん入れて、お客さんをハラハラさせてね。だてにパンチ敷いてるんじゃないってところを見せなきゃ。）回収された作品類が、作りかけにしか見えません。破壊された様子を見せるのに、物はあの着ぐるみでいいのか？ んで役者は、この芝居の時間を通して何の仕事をしているのか、と、とりあえずこんくらい準備してからその中で練習してみましょう。**必要なものと不要なもの**が役者・演出さんに見えてきます。それから整理しましょう。

②伊丹西

ネット上の相談相手が、新興宗教の教祖みたいに設定されているところがいいですね。教祖と信者の関係みたいなものが、舞台上にはっきり見えました。ただ、それを狙って作っているのか？ 結果としてお客さんを間違った見え方に誘導してないか？……。

「みんな宇宙人」や「ライカ」みたいな後半の話と、うまくつながらないなあ。もし、「教祖と信者」が間違っているのなら、舞台の作り方のほうが間違っていた可能性があります。

んなら どうするんじゃ～

ネット空間を舞台上でどう表現するか。すでに映画・アニメをはじめ、いろんなメディアを通して、作家たちが提出してくれたアイデアの蓄積がありますから、パクっちゃいましょう。ただねえ～。この本の**キーワード、キーコンセプト**ってなんなんやろ？

いくつかみえる異質なコンセプトを、力技でねじり合わせて一本の物語にするのも一つの方法（♪ ベト 7 のような？）。キーコンセプトに徹底してこだわるのもまた一つのやり方（♪ ボレロ みたいな？）。主導モチーフが、連想される別モチーフで変奏されながら、または重ね合わせながら深まっていくような作りもできます。これすべて「仕掛け」です。

「ライカ」「宇宙人」「宇宙語」という言葉から何を連想するのか、みんなで**ブレインストーミング**するところから始めたら、自分たちの**思いもしなかった結果**にたどり着けたかもしれません。自分のよく知っている結果にたどり着くために、段取り良く舞台を進めてゆくよりも、未知のものに挑戦する姿のほうが、とにかく感動的です。

それと、あの「空間の穴埋め」型のコロスの動きや、「とりあえずのダンス」はもうそろそろやめませんか。それが「ライカ」や「宇宙人」「宇宙語」の表現になってます？

部員の数が多いと、独特の困難にぶつかりますよね。舞台上の大人数をどう処理するか。そんな部内事情解決のためによく使われるのが、ダンスとコロス。そんなん、お客さんに見せんといてね。ダンスとコロスでないと表現できないものだけ見せて。

かつて阪神常勝組、全国大会3回出場を誇った県立芦屋演劇部は、「コンクールの出演は2年生のみ」の原則を守ってました。そんなやり方もあります。

③雲雀丘

『高校演劇エヴァンゲリオン』に「入り口ドアはないほうがいい」と書いたのは、こんな作品が時には見られるから。この場合は文句なくあったほうがいい。入り口ドアが逆に別世界感をかもしだしている。それにあの段ボールの量感。西宮南高校時代、当時図書部長だった長谷川先生が大量の廃棄本を演劇部室にほうりこんでくれた。たださえ狭い部室が……。整理し始めると、たびたび手が止まった。そんな超個人的なあるある感もあって、楽しく見ました。役者さん達がみなかわいい（役になじんでいるかいらないか、その微妙なところを言い当てる言葉がなかなかないのです。誤解のないように）。ここには、緞帳が開いていただけの時間、その世界で生きている人たちがいました。県大会いくかな？ なんせ4つも行けるんやし。・・・大外れでした。

んなら どうするんじゃ～

日常性のレベルで終始する作品は、どうしてもインパクトに欠ける。インパクトを仕掛けてみましょうか。たとえば地震。震度4～5弱くらい。阪神大震災の時、我が家の本部屋では本箱が倒れて本がなだれ落ち、おかげで半年以上本部屋のドアが開かず、入れませんでした。そんな状況を設定すると・・・

④宝塚北

ピッコロの外の大階段横の喫煙コーナーで一服していると、発声練習している学校があった。かなりシステマティックで、よくできたメニューだ。そういえば2年前の夏の講習会で、本格的なストレッチを披露してくれたのもこの学校。本番が楽しみだ。

幕が上がって、ありや、・・・さっきの練習はどこいったん？

んなら どうするんじゃ～

演劇部実動2年のあいだに、自分の一番きれいな声、一番通る声、自分も発して気持ちがいいし、聞いている相手も心地よい、そんな声を見つけてほしいな。お互いに確かめあって。それは全員で声を合わせて発声してはみつからない、大切な宝物です。

⑤県伊丹

失敗しました。観劇前に脚本を読んでしまったのです。おお今年は「熱帯夜」か、ええ?! 「シャワールームで・・・一斉に脱ぎ捨てる」そんなんあり? 「散々振ったコーラのふたを開ける」。どうするんやろ。興味は尽きないですね～。わくわく。

・・・・・・・・

審査員さんの講評は「演出が脚本に追いついていない」だったそうです。そかな? 確かにそれはそうなんやけど、創作脚本の強みは演出プランと同時並行で脚本が作られることでしょう? とするなら演出プランが用意できてなかった脚本の段階に、問題がありそう。

オープニングから舞台中央にいた美音ちゃん（なぜか役名を覚えています）の盗聴騒ぎの物語が、ラストシーンではいつのまにか別の物語に・・・JKのホメオスタシス？・・・あれ？ 僕 寝てたんか？ 2つの物語がバラバラになってつながらない。ま今年も県大会でもう一遍見よう・・・。

んなら どうするんじゃ～

オープニングのコロスの処理は・・・さすが。ですが、ちょっと見慣れた景色であんまりおもしろくない。「熱帯夜」のセリフも本読んでたからわかったけど、じかに伝わっては来ませんでした。単に「演出が追いついてない」というより、やっぱりコーラが噴出しなかったのがなあ。もちろん舞台上でできること、できないこと、あきらめなきゃならんことがあるのは十分わかったうえで、それでも・・・噴出しなないコーラを思わせぶりに振るなんてなあ。噴出しなないんならコーラはやめてほしかったなあ。

演劇でしかできないものを、見たこともないものを見たい。驚かせてほしい。

⑥県尼

鏡です。ある意味究極の「仕掛け」です。舞台上斜めに区切られた線が、鏡のこちら側とあちら側の境界線のように。題名からの想像ですが・・・。けどなんか変な鏡です。違和感が・・・。

鏡の不思議さはなかなか説明できません。ためしに鏡の前に立つと、ひとりのおっさんが立っています。ここはコミュニケーション、と、口角を挙げ右手を差し出すとおっさんは左利きでした。

あわてて左手に出しかえると、おっさんも手を替えて右手を出している。ついに握手はかありません。どっかで見たことあるぞ、と自撮りした写真を見ると、写真の僕とよく似ている（けど違ってもある）変なおっさんです。向こうでおっさんも写真を見ていました。

違和感は、舞台上の鏡が握手できる鏡のはずなのに（点対称鏡）、普通の鏡のようにも見えることからきていました。どうなってるの？ と妙なところにこだわっているうちに話はサクサク進んで、え？もう終わり？ ごめんなさい。よく見てませんでした。

んなら どうするんじゃ～

「ぶにゅっ」。鏡面を越境する時の音が、とてもいい。おそらく一生忘れない表現です。近畿大会出場の御影高校でさえ、ミサイルの着弾音はありきたりの「ちゅど～ん」でした。これ高橋留美子の（鳥山明やったか？）発明したオノマトペ。残念なのは「ぶにゅっ」には汎用性がなさそうで・・・。

⑦県宝塚

ヘタレのチームに情熱的な主人公がやってきて、ひとり一人が変わっていく（本来の自分を回復していく）。そしてついに栄冠を手にする。鉄板ネタです。世界中の名作映画やドラマで使われて、なお使い古されない鋼鉄の鉄板です。

問題は何を目指す何のチームか。何のチームなら**舞台映えするか**。実際にできるのか。

んなら どうするんじゃ～

辰寿先生の評言通りです。歌うならアカペラ選手権めざして練習すべきでした。県大会の姫路北さん見ました？ バク転、側転、バク中を演技するのに、6月から体操のコーチつきで練習したそうです。（おお「幕が上がる」の世界！）歌が無理なら、3週間程度でマスターできる種目・演目を探るべきでした。もちろんどんな種目になっても、カラオケシーン（ダンス付き）は必須。あんな秘密兵器があるんなら、種目は音楽から遠いもののほうが面白いかも。（**落差・ギャップの法則**）

⑧女学院

文句なく**全国レベルの題名**に期待は高まる。これ大事なことです。作者はきっと否定的に語られる「ぼっち」も肯定的に語られる「コミュ力」も「リア充」も信じてないんでしょう。そんな題名です。下らんレッテル貼りごっこなんかと関係なく、生身の人間たちのことを考え抜く作品。とびっきりのリアルに出会えるかも。わくわく。

幕が上がると、ありゃ？ なんか普通にグループワークとかしてるし……。なんも考えられずに終わっちゃいました。

んなら どうするんじゃ～

ミーティング積み重ねてください。「ぼっち」ってなに？「コミュ力」ってなに？「リア充」ってなに？ そうして、一般に流通している意味とはちがう、まずは**自分たちにとってのリアル**な意味をみつけだしてください。

ここから県大会です。

⑨西宮南

セッティング中の舞台を見ました。演出がいるぞとはっきり主張している舞台装置。カバンの色もおそろいの黒。きりっと引き締まっています。いいね。

ここは教室。生徒らしき人たちが入ってくる。仮面をつけて、黒いマントはおって時計仕掛けのように寸分の狂いなく？ なるほど。そこへ普通に空気が読めない普通の転校生。う～ん。なんか違うな。・・・お約束のイジメカタログ。何の発見もなく、冗談どころじゃないのに冗談にしか見えない。イジメがむごいのは、そこに「仕掛け」も「工夫」も「創造性」もないからかもしれない、とか思っていると、・・・

いよいよ本格的なイジメシーン。おおダンスか。ふ〜ん。これは「工夫」だ。表現だ。

んなら どうするんじゃ〜

暴力シーンは本当にむづかしいです。リアルを追及すると、どうしても役者の心や体が傷ついてしまう。擬闘は、映画なら通用するが舞台では、やはりただの擬闘にすぎません。決定的に音がない。肉を打つ音、打たれる音。僕が以前にやった時は、竹刀を使ってさんざん派手な音を出してみました。やっぱり音だよ。野田秀樹が『B e e』で見せた指を折るシーン。割り箸を一本一本折っていた。こわ〜い。鉛筆だったらもっと怖いよね。県大会で見た御影高校は、グーで頭をどつく、竹刀で頭をうつを上手にやっていた。さすが。今回のようにダンスの表現もあります。ただ振付はもっとな〜んとかあったんやないかな？ あまり暴力を感じなかったです。

⑩西宮今津

今年も時代劇でした。今津高校演劇部の昭和・・・部作。その**こだわりと、チャレンジ精神**は評価しましょう。ただし幕末〜明治以降の時代劇は鬼門です。なんせ写真も動画もある時代ですから、リアルを追及するとドツボにはまる。下手すると時代考証だけで準備期間が終わっちゃう。とするなら、舞台装置・衣装・小道具などのリアルはどこかであきらめる必要がありますが、その要不要の線をどこに設定するか。今津高校はどうしてるのか。・・・わりと前半？手紙を届ける女性が、朝鮮から来たという少女に紹介されて握手してました。?????? わからな〜い。あの時代の日本人女性が（僕の母親世代）、握手なんてするのかな？ 疑問がわいて、もうあとはほとんど覚えてません。もしかして、脚本を読むだけにしとくか、目をつむってセリフだけきいていれば、多少気になるところはあっても理解できたかも。

なんとか婦人会の方々、タスキだけでいいんかな？ 割烹着はいらんのかな？ あれ？ これそもそも何戦争の話やっけ？

んなら どうするんじゃ〜

時代劇であろうとなかろうと、**中途半端な舞台には説得力がありません**。僕なら、リアルはな〜だけ排除します。それなら徹底することもできるので。細部のリアルなんか無視して、核になる中心のテーマだけリアルを追及する。もっと言えば、昭和なんて中途半端な時代もやめて、近未来の（平成の次の）時代設定で十分かと。安心してください、残念ながらありますよ、戦争も差別も。

ジーパンのシェークスピアも、戦国武将のマクベスも十分リアルに成立するんです。ユニクロの時代劇もありでしょう。

⑪西宮甲山

県大会で見ました。ピッコロの外の大階段横の喫煙コーナーで一服していると、ミーティングをされていて、その内容にびっくり。かなり緻密なきっかけの打ち合わせ。と同時に、ひとり一人の演技についてはおまかせ、みたいな。すごい集団です。

幕開くと、白紗幕に文字が投影される。紗幕は大きな仕掛けです。そして間違っ使った時のリスクもハンパないしろものです。特に白紗は。今まで高校演劇で効果的に使われたのを見た記憶が、ほとんどない。失敗の理由は簡単。練習では使えないから、全部ぶっつけ本番になっちゃうのね。

上手女子一人のサス芝居、下手女子の机についての一人芝居、センター女子のサス芝居、合唱練習をめぐってのハイパーリアルな芝居（順番覚えてないので）、いずれのセリフも素晴らしいででした。そして**あの**セリフのない3分間（五ノ井先生の計測による）もおもしろかった～。なるほど、あの打ち合わせでよかったのね。ピン芸2級の実力発揮。

ただ私的にはラストのほうは全くわかりませんでした。すいません。60年代だか70年代だかの映像も、紗幕奥で叫んでたのも、みんなで和やかに合唱してる場面も、「なんのことう？」でした。これが、阪神の優秀賞か～。ごんちゃんが悩むのもわかる。

かつて阪神大会の審査をしたときに（3人で）、「全体的にグダグダで、ラスト5秒の衝撃」だけの作品を県大会に選んだ経験があるので（逆に全体的によくできていたのに、インパクトのない作品を落とした）、今年の審査結果も何となくわかる。また『十五少年漂流記』で10分以上セリフなしのシーンを作った時の、ごんちゃんの評言が「破壊的」だったか「暴力的」だったか。その時は褒め言葉ととったけど、もしかしてごんちゃんはセリフのないシーンが嫌い？

んなら どうするんじゃ～

なんの仕掛けも作らないと、舞台上の時間はリニア（直線的）に流れていきます。だからリニアに展開する「物語」は舞台に乗っけやすい。だけどそれってリアル？ 本当に現実にはリニアか？と疑うところから平田オリザの実験ははじまりました。もっとパラレル（同時並行的）な構造を！ということで、舞台上あちこちでパラレルにセリフが進行するような舞台を作った。脚本というよりもスコア（総譜）みたいなもんでしょう。なるほど。たしかにこれも「仕掛け」のひとつですが、それって本当にリアル？ 僕は違うと思っています。だって～、あんまり面白くないもん。

間違ってるかもしれませんが、あれだけリアルに合唱練習サボってた子たちが、紗幕の奥で「本当は・・・」と叫んでいたのだとするなら、「**一見矛盾するどちらも、パラレルに本当だ**」と認めるところからこの芝居はやっと始まるのです。芝居がそこから始まる出発点を見つけただけでも殊勲賞です。**パラレルなリアルを、リニアな舞台に乗せる「仕掛け」**を探してみてください。（EXILEのコメントみたいですいません。）

総評にかえて フロセニウムアークを ぶにゅっと越える

毎年、大会全体を見てからその年の課題みたいなのを考えます。合評会のネタと言ってもいいですが、そんな近視眼的なものでなく、もっと遠くまで見通して・・・。「世界の立ち上げ方」とか「脚本の難易度の上げ方」とか、「役者のたしなみ」とか・・・。『高校演劇エヴァンゲリオン改』は、そんな中から生まれました。（五ノ井先生作成の阪神支部半公式ホームページにありますから、ぜひご一読ください。）

ところで皆さんは**一人芝居**って見た事あります？ 最近はどこも部員数が増えて、なかなか一人芝居ができませんから、もしかしたら、ない？ コントじゃありませんよ。

何本か脚本を書いてからも、一人芝居は書く自信がなかった。何をどう書いたらいいのかまるで見当がつかなかったからです。書ける、と思ったのは2人芝居ばかり3年続けて書いた直後でした。そのとっかかりが『十五少年漂流記』で、舞台幕開きから10分以上、一人でセリフなしのシーンが続きます。



『タバコの害について』2006

3本目の『俳優修業 永久不滅篇』では、プロレスのマスクと2個の仮面を使って、一人で『3人姉妹』を演じるシーンをつくりました。これも10分くらいはあったんちゃうかな？ な～んや、ひとりでいけるやん。これを書けると思ったきっかけです。ところが、・・・。



マルセル＝マルソー

一人芝居には独特の困難があります。想像してみてください。あなたは**一人ぼっち**にいるときにどれだけしゃべります？ 内語でなく声に出して・・・。ときどき講評で「セリフのキャッチボールができてない」みたいな指摘をされることがありますが、ひとりですよ。どうやってキャッチボールせい言うんじゃ～！

一人しかいない人間がおしゃべりする状況をどう設定するか。だってマルセル＝マルソー（パントマイムの神様）でも、60分間のマイム作品なんてできんでしょう。どっかでしゃべらなきゃ。

これって、ある意味究極の「**仕掛け**」「**からくり**」です。どんな工夫をすれば、一人だけの演劇空間が成立するのか。

初心者はとりあえずものまねから。

新屋英子の『身世打鈴（しんせたりょん）』や坂本長利の『土佐源治』。きっと知りませんよね。前者は在日コリアン1世の話。後者は乞食の話。語り物です。ミーちゃん（これが、当時たった一人の演劇部員の名前）がかわいく見えないなあ。



『身世打鈴』



『百物語』

万語かのセリフと格闘したあげく、終わると自然と涙が出たそう。な・・・無理。

んじゃ白石加代子の『百物語』は？ う～ん。きっと無理。

渡辺美佐子の『化粧』（井上ひさし作）とか戸田恵子の『なにわバタフライ』（三谷幸喜作）・・・。

僕が初めて見たのは江守徹の『審判』（バリー＝コリンズ作）。何万語かのセリフと格闘したあげく、終わると自然と涙が出たそう。な・・・無理。

もがいていたころ、柄本明の『タバコの害について』（チャーホフ作）をテレビでやってて、「これならいける」と勢い込んで書いたのが『タバコの害について』（2006年）。

チャーホフ作の一人芝居『タバコの害について』を練習している演劇部員という設定。これならどんだけ声出しても大丈夫。装置もいつもの演劇部室でオッケー。役者の負担軽減とけいこ時間節約のために、



本持って練習している設定で、堂々とカンペを仕込みました。途中で特性ジュースを作って飲む（納豆、カマンベールチーズ、バナナをマヨネーズで和えて、ウーロン茶、オレンジジュース、サイダーでわる。ミキサーしてできあがり。うまい。）という鉄板ネタも用意して、ほぼ万全の構え。



『化粧』

だけど・・・問題は解決してないのわかります？

チャーホフの一人芝居をそのままやるのなら何の問題もないんやけど、ミーちゃんはどう見たってロシアのおっさんには見えん。嘘くさいし、本自体そんなに面白いとも思わんし。設定はあくまでチャーホフの一人芝居の練習をしている演劇部員ですから、チャーホフのセリフは劇中劇のセリフにすぎません。そうすると、本来のお芝居（練習している演劇部員）のセリフをどうする？ という問題が残るんです。



結局、チャーホフ作の一人芝居『タバコの害について』を練習している演劇部員という設定を変更。「チャーホフ作の一人芝居『タバコの害について』を練習している演劇部員」という作品を、たったひとりで鏡の前で作っている演劇部員ということにして、たった一人の演劇部員ミーちゃんは、だからしゃべらない。もくもくとセリフをメモしているんです。鏡なんてどこにあるのかって、前ページの舞台写真見てください。ほら目の前、客席と舞台の間の「第4の壁」に大きな姿見があるんです。演劇部室ですから。これ『化粧』のパクリ。ミーちゃんはその鏡に向かって練習してるんです。最後のセリフ2つ、3つだけがひとり部員の生声でした。う〜ん、うまくいくのかな？ 微妙にややこしい。

……。この設定の甘さは阪神大会では問題になりませんでした（ミーちゃんの魅力と演劇ジュースのパワー！）、県大会で大御所先生に指摘されて気が付きました。大御所先生にはこの設定が伝わらなかったんです。反省。

閑話休題。舞台には「第4の壁」があります。観客はその透明な壁越しに、人々の営みを覗いている。盗視・盗聴ですね。時には心の声まで聞こえる。（テレパシー）。とんでもないのぞきからくりです。犯罪的な仕掛けです。役者がこの壁に向かってしゃべるのはご法度。のぞき屋の観客をどぎまぎさせてしまうから。……。なんかインチキっぽくない？

と思ったあなたは、「すでに毒が回っている」。え？ なんのことって？ プロセニウムアーチを疑うことですよ。演劇にプロセニウムアーチって必要？ 一人芝居にとってプロセニウムアーチって、なに？

「どこでもいい、なにもない空間 — それを指して、わたしは裸の舞台と呼ぼう。一人の人間がこのなにもない空間を歩いて横切る。もう一人の人間がそれを見つめる — 演劇行為が成り立つためには、これだけで足りるはずだ」ピーター＝ブルックの超有名な『何もない空間』の冒頭。



『身世打鈴（しんせたりょん）』はスポット一つ！『土佐源氏』にいたっては、なんとロウソク1本で十分！……。そういえば柄本明が演じていたのも、ロシア人の観客を前に、舞台照明もなさそうな公会堂みたいなところでした。



エピダウロスの劇場

もともと劇の誕生は、野外の、プロセニウムアーチなんか存在しない劇場で、合唱隊（コロス）の指揮者が（おそらく）たった一人の演者として演じたのがはじまりとか。

やがて演者は2人、3人と増えながら役柄を示す仮面をつけて演じたようです。能にしてもまずは**シテの舞**から、歌舞伎も**出雲の阿国のかぶき踊り**が始まりでしょう。



グローブ座

シェイクスピアのグローブ座も、復元された現在の劇場は、半野外の青天井に張り出し舞台。観客席に比べると簡素な舞台です。ほぼ3方向から舞台が見える。もちろんプロセニウムアーチなんてありません。



能楽堂の舞台

(2方向から舞台が見える)

僕自身は野外劇の上演経験が1回と(『森は生きている』1990)、円形劇場での観劇体験が1回(『贗作 罪と罰』野田秀樹作 大竹しのぶ主演)と貧しいものですが、今なお忘れられない経験です。・・・

一人芝居を考えることは、もしかしたら芝居そのものを考えることなのかもしれません。そして芝居そのものを考えるとき、プロセニウムアーチなんて吹っ飛んでしまいます。

一人芝居の話のつもりが、とんでもない所へ来てしまいました。でも、・・・なぜ？

そういえば今年の阪神大会には、一人芝居のネタに使えるアイデアがゴロゴロころがっていたなあ。ズバリ**鏡**です。いや**テレパシー**も**盗聴機**も気になるし、**本で埋まった八角部屋**も、**手紙**も、**ライカ犬**も、「**ほっち**」も「**コミュカ**」もです。これみんな一人芝居考える絶好の手がかり。

そこでみなさん、今年の阪神大会作品をぜひ一人芝居に書き直してみてください。できます。書き直すのが面倒なら、構想してみてください。部員が何人いても一人芝居。あとはクロス。そして、一人芝居の新作にぜひ挑戦してみてください。プロセニウムアーチを「ブニュッ」(カタカナヴァージョン)と越えるような、画期的なやつを。

思い出せば僕の阪神デビューは、女2人・男1人にあてがきした脚本を、**そのまま女2人**だけで演じたものでした(『失われた時を求めて』)。今なら女1人でもいけます。・・・きっと。・・・かもしれない。・・・のような気がします。

もしかしたら、ごんちゃん今年是一人芝居やりたかったんちゃうかな？